



# 「こんにちは 市長です」

## 2月15日号

1月の末「総合教育会議」が開かれた。従来、教育については教育委員会、市長は観客席に座っているだけ。お声が掛かると予算をつけるのが役目だった。予算のことがあるので教育委員会は完全独立というわけにもいかない。「それはまずい、市長も仲間に入れてやろう。その方がうまくいく」、文部科学省はそのことに気付いたのだろう。市長を仲間に入れる法律を作った。4月に開校する北の杜学園（小中一貫校）はこの会議で決められた。

今回は「GIGA(ギガ)スクール」がテーマのひとつ。新年度になると小学1年生から中学3年生まで1人1台の情報端末（タブレット）が国の負担で配られる。つまり国から教育委員会への命令「個別最適な学び」を追求しなさいというわけだ。これぞ「令和の日本型学校教育」らしい。もらったはいいが、準備も何もなく「これを使って子どもたちに教えなさい」というのだからかなり無茶。文部科学省というところはかなり思い付きのところがある。有名なのは「ゆとり教育」である。教科書が急に薄くなって喜んだのは誰だったか。その反動は大きかった。「お琴、三味線で日本文化を学べ」というのでそろえた。学んだのかどうなのか分からない。武道館を全中学校に造った。柔道、剣道を子どもたちに体験させなさいという命である。先生がいらないのに「やれ！」だから成果は確認できない。タブレットを配ってICT（情報通信技術）教育を「やれ！」もお琴や柔道みたいになりはしないか、実は心配している。

教員免許を持っているとはいえICT教育はどうか、先生たちは不安を抱えてスタートする。ただ言えることは、ICTは次の日本づくりで欠かせないファクター（要素）であるということだ。頑張ってもらいたい。（1/27記）